

第3回 屋久島町廃棄物減量等推進審議会 会議録

日 時：平成30年11月28日（水）午後1時30分～午後3時30分

場 所：本庁2階会議室

【内容】

事務局：ただ今より第3回廃棄物減量等推進審議会を開催します。それでは、会次第2第2回廃棄物減量等推進審議会議事録の確認についてです。皆様に事前に配布しました第2回議事録について、修正等ありませんか。（意見は特に挙がらず）無いようなので、この議事録を承認したものとします。よろしくお願ひします。

会次第3炭化・電気溶融施設の運営計画及び点検報告（抜粋）についてです。（資料に沿って説明。）何か質疑はありませんか。

委 員：これは平成28年度の報告ですが、今の方が深刻になっていますか。

事務局：報告を受けてから炭化炉の延命ということを検討してきたが、延命にはコストがかかるということで、上司と協議をした結果、新しい施設の検討を行うため、このように皆さんに審議して頂いているところです。出来る範囲の中で補修を行っている。状態を把握した上で稼働に支障が無いように予算の範囲内で延命化を図っている。

委 員：どれも老朽化して厳しいのが分かる。切断、破袋、破碎、減容とあるがこの中で現状厳しいのはどこか。順位をつけるとしたらどこか。

事務局：切断機は1年に一度定期的な交換を行っている。切断が出来ないと処理が進まないので、定期的に取り替えている。破袋機に関しては、3年目以降は修繕を行っていない。破袋機は切断機の小さいものと考えてもらえばよい。施設は当初、切断機で切断する予定ではなかった。直接炉に投入し、破袋機で細かくする流れだったが、いつも破袋機で引っかかったので切断機で細かくしてから入れるようになった。一応補修が出来ているのは切断機、破碎機で、減容機については今年度補修を行う予定となっている。破袋機、炭化炉については補修できていない。

委 員：この資料を見る限り、一日でも早くやらないといけないと感じる。先般ある議員の方が補助金を返納してでも早くやらないといけないと言っていた。審議会で話をしてくれと言われたが、私はこの話は不可能だと思う。この資料を見る限り何千万かかけて補修した後に、5年を目途に新施設となっているが、それまで持つのか、（資料に載っていない）新たな支出がすぐ発生するのであれば早急に何かを考えないといけないと資料を見る限り思う。5年くらい先に改修をしましょうという大きな目標を掲げているのであれば、それまでにこの方法で可能かどうか。例えば、切断機について1,500万円×2回で補修したと、これがうまく処理が出来れば問題ないが、切断機がうまくいかないとの後の機械に負担がかかってきて、関連して他の機械に負担がかかってくる可能性があることを考えておか

ないといけない。ここで、金額が参考までに出ていると思うのですが、これ以上になるのではと予測が出来ます。これをどう処理するのか気がかり。今、書いてある経費で5年くらい持つていけるのか、気になる。何か把握しているか。

事務局：ここにあげている金額は、これを行っていけば、順調に処理が進んでいくのではないかという金額である。現在管理をしてもらっている日本管財さんに施設の状況を細かく確認してもらい、課と連携をとり機器を少しでも長く使えるように、更新サイクルを少しでも先延ばし出来るように連携を取っている。修繕は必ず掛かる。お金が掛からない形で延命化を図るように管財と連携を密にし、機器の状況把握に取り組んでいる。

委員：5年持たせるために原点に戻るのですが、持ち込まれるごみの中に機械を破損する恐れのあるものが入ってくると思う。ごみを出すのは当たり前と皆さん思っているが、ステーションを見ると缶が入っていたり、分別が出来ていない物をよく見る。それが長く続くと機械に影響を与えると思う。5年先に改修が始まるのであれば原点に戻って、分別が大事ではないか。ごみは誰でも出せばよいという話ではあるが、テレビでゴミ袋が3倍になったとよくやっている。名前をのせてやっている。そういうところはうまくいっていると報道がされている。それが果たしていいかどうかは別にして、みんなが守らないのであれば、何か方策を考えないといけない。ただ分別してくれ分別してくれではなかなか機械が5年間もつか不安である。ごみを出す人たちの認識を深めることも大切だと思う。

委員：ここに計上している補修費用をかければ5年間持つという目安で書いているのか。

事務局：あくまでもメーカーからこの交換が必要ですよという回数ですので、これをすれば確実に持つというわけではなく、上手く運転していけるだろうというものです。

委員：今までで、一番大きな、ストップした時期の修繕は幾らだったのか。

事務局：長く止まっているのは切断機や減容機などの、すぐ簡単に補修できるものではないのでメーカーを呼んだり、また、屋久島の場合ヤクデンさんがあるので、ヤクデンさんが動けるときはすぐ動いてくれる。動けない時は、メーカーが直接来るので時間がかかってしまう。

委員：ここ2年ほどがこの金額なのか。あそこをオープンしてから営業している中で、これらの交換というのは何もなかったのか。最初から部品交換を行っていたのか。

事務局：頻繁に行っていた。

事務局：最初の2年間はメーカーの保証がありますので、頻繁に行っていたと思います。それ以降は、この金額1億ほどかかるので、修繕費は年間3,000万円程なので使えるものは先延ばしにして、予算の範囲内でやりくりしていたところがある。補修ができていないところはある。

委員：予定としては、これだけすれば持ちそうだとということだけど、使えるだけ引っ張ろうと、でも、およそ年間 6,000 万円程のお金がかかると思わないといけない。炭化炉の方が壊れたら莫大な金がかかるということなので、先程原点に戻るという話がありましたが、私もごみ袋については、嫁が居ないと全く分からない。お金はかかるかもしれないが、袋の種類は増えるけど、前みたいに戻した方がいいのかな、それでも分別が悪い時は名前を書かすという風にしないとだめなのかなと思う。

事務局：今ご指摘のとおり、炭化炉が問題、炉の改修は億単位で、炉の改修をやらないように最大限の努力をする。処理施設の 1,000 万円単位の改修は、5 年以上経過した施設は起こりうる。ただ、うちみたいに 3,000 万円も 4,000 万円もかけているかということそうではないが、改修は定期的にしなないといけないということはある。その中でも炭化炉の中の壁が崩壊したら億単位なので、それが無いように最大限の努力をしている。あと 5 年ということは、最長として計画しているが、4 年ということもあるし、3 年は難しいかもしれないが前倒しということも、これは今後の建設検討の中ではありますが、議論になれば町は従う。

委員：今月 4～9 日議会の意見交換会を各校区で行った。テーマは町のごみ処理について町民の方から意見を伺った。補助金の返還は可能なので繰り上げ償還行い前倒しをしてでも作るべきだと話があった。償還があと 3 億 6 千万位ですかね、借金が残っていることで、5 年後を目指してということで、延命のために分別をしているんだということで、どこの意見も分別が分かりづらいと、高齢者にはわかりづらいと、共通した認識として各地区でもう一度分別のごみの出し方の説明をしてほしいという意見がでた。郡内でも突出した経費の話をするると皆驚いていた。一日も早く作り直すべきではないかと意見が多かった。

委員：確認なんですけど、こういう施設は、普通の耐用年数より低いと思う。通常 15 年という耐用年数だが、屋久島町の施設は作って一桁年数でいろいろ言われています。役場が予算をつけて一生懸命やっているのは分かるんですけど、そんな中で、先程話があった補修は技術屋さんから見たちゃんと稼働した時の純粋なあり方だと思う。今、いつ壊れてもおかしくない状況であり、10 年前からわかっていた話だと思う。5 年に固執するのであれば、補助金返納があり、それを払いながら、毎年補修を行うのであれば、卵が先か鶏が先かの話である。パンクすると工事はしなければならぬけど、その間ごみの処理はどうするか。補助金の絡みがあり 5 年後となっているが、1 年でも早くスピードを速めてほしいといけない。いつ壊れてもおかしくない施設だと思っている。27 年度に出てきた報告書から何年もたち、これだけ変えていかなければならぬのに、予算の関係で出来ない、破碎機はノータッチなんて、ちゃんと動いていて耐用年数が 15 年にもかかわらず、動いていない機械がいろいろある中で、たぶん、5 年持つのかな、持ってくれば、ごみの袋を変えてということもあ

るが、ごみは3年ぐらいで決めるということで分別はちゃんとするという方が良いと思う。

委員：今日お集まりの委員の方は財政的なことはお分かりだと思いますが、はたして一般町民の皆さんがごみの問題でこれだけお金がかかっている、分別に取り組みば少しはコストが下がるということがわかっているのか気がかり。ごみの問題は町民全員で取り組むんだよということを周知することが必要だと思う。今の分別状況で施設が5年持つというような予測をされているのか。金額をみると、高くなっても安くなることは無い。町民の皆さんに屋久島のごみは一人当たりこれだけ掛かっているだよということを知ってもらうことも一つの方法だと思うし、そうすると少しでも分別をうまくしてくれるかもしれない。委員は財政的に認識しているが、町民は認識していない。だから、ゴミは何でも出せばいい、前にテレビでしていましたが、ごみ袋の値段を3倍にあげたと、それでも難しいという話もでていた。今、全国でそのような話が出ている。どうしても聞かなければ袋の値上げもして、聞かせることも手段の一つである。行政の方で財政的な問題が無ければこのままでいいのかもしれませんが、このまま膨らんでいくとどちらかにひずみが生じてくると思う。私は、ごみの分別を何とか皆さんにしてほしいと考えている。原点の問題しかわかりませんが、できれば町民皆がそういう気持ちを共有することがいい方法であると思う。

事務局：町の方で町報で分別の記事を掲載している。また、議員の懇話会の中で住民の声もありましたので、集落の説明会を行う予定としている。老人クラブの中でも会があるということで出向かせていただく。そのような場を使い、話をさせて頂く中で施設のこと、施設の金額の事などお伝えできればと思う。また、今施設の見学も多く来ている。主婦の方が多いので、その方々にもお伝えしていく。また、委員の皆さんも多くの方に伝えて頂ければと思います。

委員：意見交換会では、職員が出向いてきて説明をしてほしいとどの会場でも言われた。要望云々ではなく、計画的に説明会を開いてほしい。前はよくやっていて、良く理解できた。ここ何年も行われておらず、分かりづらい。ぜひ職員が出向いてきて、説明してほしいとのことであった。もう一点。担当課として、施設は非常に厳しいという認識を持たないといけないと思うが、5年持つのか持たすのか。色々な措置を講じて5年持つのかどう考えているか。

事務局：非常に難しいところではある。補助金を返してでもというのは、償還金の繰り上げ償還ということだと思いますが、それを返すにも2～3年かかります。それを償還したとしても利息の分が少し減るだけであって、元金がほとんどなので、そこまで影響ないのかなと思っていますし、財政計画もあるので難しいのかなと思っています。また、1年でも前倒ししてというので、私たちもそうっていますが、次の新しいシステムをと

なれば、建設年数もありますし、その前の設計、補助金の申請などを含めると、早くても3年4年はかかってくるので、最短でも35年供用開始かなと思っています。いろんな方式がありますので、ここで結果が出た後の建設検討委員会でお話しして頂ければと考えています。担当課としても皆さんと同じで、このままではいけないと重々思っている。分別の方法も判らないという声も大きいので、各集落を回る計画をする。公民館長さんにも協力をもらい、住民の方に説明を行っていきたい。

事務局：町長への答申案作成に向けて、皆さんのご意見を頂きたいと思います。これまでの会において、本町の廃棄物の現状を説明させていただきました。これを踏まえ、施設や、分別・リサイクルの良い点、悪い点を挙げていただき、これらを踏まえて目指すべき姿についての意見を頂きたいと思います。

委員：良い点は煙が出ないところかなと思う。悪い点はいくつもあるかなと思う。あまりにも細かく裁断しないと処理が出来ないという点、炭化物処理の費用が多額である点、処理後の炭化物及び小さなくぎ等の混合物が処理できない点、不具合が多いと同時に修繕費、燃料費を含めて維持管理費があまりにも多額である点、リサイクル施設の作業が多く、人手を要しすぎである点、ただこの点は、おかげで施設の損傷が少なかったともいえる。ペットボトルの梱包作業場所や置場が狭い点、冬場の作業環境が悪い点、これは焼却熱の利用などが出来ないかと考えた。以上です。

委員：良い点を考えたが、特にゼロだった。3年程まで施設に興味はなかった。町民の何割かは全部燃やせると考えていると思う。あくまでも主観であるが。炭化物を島外に出していると分かっている島民は何人いるか。まずは理解してもらわないといけない。だから、良い点は何もない。悪い点は、当時の検討課題が少なかった。私たちは離島です。全部焼却するならよかったが、毎年、島外にいろいろ出している。そのことが、経費負担の増につながっている。当時一生懸命協議した結果だろうが、今の状況を理解し、問題提起をしないといけない。今のようには島外搬出をしなくていい施設を作るべきだと考えます。

委員：現在の施設の中で莫大なお金をかけたけど使えていないところがある。熔融炉です。

事務局：この前の議員の懇談会の中で、町民の皆さんからの声は無かったですでしょうか。

委員：尾之間の会場では、簡単でコストのかからないのが基本ではないかという意見があった。結果的には、環境の事があったが、コストがかからず、修理が簡単で、良い点というのは、現状でこれだけ修繕費が掛かっているので、無いですが、当初、出口から考えていった、最終処分を少しでも減らして、島内で処理出来たらいいんじゃないかという思いがあった。しかし、それが出来なくて島内に炭化物がたまった経緯がある。町民からはコストがかからなくて、簡単な方式という意見があった。

委員：各集落の区長は燃やせるものはみんな燃やすという意見であった。屋久島が世界遺産なので今の処理施設になったのか、何か規制があったのか。そこが知りたい。

(これまでの会の中で説明をしているので割愛)

委員：今の施設を検討する際の反省をすると、専門家を会に入れなかったことではないか。プレゼンをする側は売りたいがためにいいことを言うでしょうし、客観的に見れる専門は建設検討委員会には必要。意見交換会で、町民にどれを選べと言われても専門ではないから選べない。難しいことだから、議員役場で勉強してしっかりやってくれ。私もネットなどで見るぐらいで専門的な知識というのは本当の所わからない。最終的なところでは、専門家を入れて、同じ過ちを犯さないようにしないとイケない。

委員：この審議会のあとの建設検討委員会で次の機種についていろいろ検討してもらおうのですが、ここの委員会の意見を次につなぐという意味から、色々出してもらおうことが大切。前回の過ちとっていいのかわからないが、これをしっかり検証し、次につなぐということは大事。前回は、両町の代表者が10名ずつ出て、最終的に1票差で決まった。これではなく、委員会の大多数が2/3とかが合意をするような決めかたが良いのでは。次の会では、メンバーの大多数が賛成するような決め方をしてほしいと思います。これは大事なことでないか。

委員：当初計画通りの性能が生かされてされていない。環境に優しいというのを一番において、こういう方式を採用したのは世界遺産だからだと評価はするが、専門家がゼロの中で素人だけで検討する主観的なやつは、研修にいても研修先は良いことしか教えてくれず、悪いことは何も言わない、専門家にちゃんと勉強会をしてもらい、委員の人たちに科学的に説明してもらい、賛否してもらおう。科学的な根拠を説明してもらい、決めないとイケない。あと、離島だから燃えたものを島外に持ち出すというコストを前回は検討が少なかった。離島ゆえの施設について、維持管理費などに科学的な判断資料を出してもらわないと、一般住民で話をしろと言われてもわからない。検討委員会では、廃棄物施設は生活に密着しているから頑張ってもらわないとイケない。ゼロエミッションでずっとやってきて、ごみ処理は最悪だと思う。これは、みんなで考えを出さないといけない。何年後に出来るかわからないが世界遺産にふさわしい施設にしないとイケない。施設は、科学的に、今の様に10年後に云々というのが無いような選択をしてほしい。

委員：みんなの意見を聞きながら、良い点が無いというのもさびしいので、屋久島だから出来ることは、廃食用油は、役場のディーゼルカーに使って、処理が出来るとか。生ごみはたい肥化して活用されているとか、それは良い点だと思います。あと、利用可能な紙類やペットボトルや発泡スチロールは島外で少しは金になっているということは良い面かな。悪い点は、機器の補修は、変えないでいいものを先延ばししたりとかしてる。そ

うというのが、逆に悪かった。点検修繕がちゃんとされていたのか、疑問点がある。それから、コストがかかる中で、家庭ごみ、事業系ごみの線引きがはっきりしていないために、ゴミが増えたのではないかということも思う。あと、指定ごみ袋の料金を少し値上げしていいのかなと、早く取り組むべきことではないか。あと、問題点は、町民の皆さんにごみそのものを減らしてもらって使えるものは使ってもらって、再びリサイクルして使ってもらい、燃やせるごみを減らす習慣をつけさせる運動に早く取り組むべきことではないか。

委員：分別については、みんなが細かくごみを分けて出さないとという意識になっていると思う。ただ、この世の中で100%は無いと思う。ただ、あまり細かく分けすぎたのに、施設がこの状況だから、問題になっている。分別の方法は素晴らしいと思う。今後新しい施設を作る時は、リサイクルできるものと出来ないものと2つに大別しちゃって、リサイクル出来ないものは全て燃やしてしまっただけで、温度を上げてしまえば、当時心配した色々な環境への負荷は下がり、そのような施設だと、陸も海もごみゼロで、施設から出てくるものもゼロという世界遺産にふさわしい屋久島の施設になると思う。

委員：生ごみをたい肥化して、いいことだが、生ごみの出し方、ステーションの在り方をどうにかできないか、前から話をしている。夏場になればハエが来る。ちゃんとしたステーションが出来ているのでカラスや猫の害はないが、はえ、汁がでる。何かいい方法は無いかな、考えている。ごみステーションのなかで堆肥化できないか。ポリバケツを置くこともあったが、ふたが閉まらないくらい入っていた時もあった。何か改善策は無いかなと思う。

委員：意見交換会の中で、資源ごみはどのように使われるのか聞かれた。私たちは燃料になったということが、言いづらい雰囲気であった、今後分別をもっと、燃えるゴミを減らすためには、使い道をもっと各集落で説明をする必要があるのでは。今、燃えるゴミに入れているものをもっとこっちに入れてもらう、今汚れているものは燃えるゴミにという表現だが、このぐらいまでは大丈夫というところを示していけば、燃えるゴミに入れたものが燃料として使われるのであれば、このまま出して大丈夫かなということを考えてもらえれば、燃えるゴミに出てくるものが1割でも減れば、効果が出てくると思う。

委員：分別が悪いというが、各ステーションを見ると残っているのは1割もない。そういうところでは、分別の意識も出ているのかなと思う。生ごみについては、綾町辺りは拠点回収をしている。入れ物にいれるとたい肥センターが取りに来る。そういったことも検討しては。それと、大型店舗のレジ袋有料化は良い点だが、小売店までいってはいない。

委員：資源・紙、資源・プラの分別について、評判が悪い。いろんな人に意見を聞いて出てくる。分け方の基準が明確でないということで、きちんと

わかれば、しないといけないということになる。分け方が分からないと、リサイクルというから、これで何かを作り出していると思っている人が多いようである。これがよくわからないと、良くわからないものに、時間と労力と金をかけてしないといけないのかという意見が多い。基準が分からないから、子供にも教えることができない。子供に伝えられないから、そのまま捨てていいよと言いながら、あとから分けているという話をお母さんたちから聞く。非常に評判が悪い。それから、粗大ごみの幅が広い。種子島の資料を見ると粗大ごみが分けられている。屋久島町は、大きくても、小さくても粗大ごみに分けられている。袋の中には、種類が違うものが粗大ゴミだから一緒に入れられている。それで、現場の作業に手間がかかる。時間がかかるから、人手がかかる。人手がかかるからお金がかかるとなってしまう。種子島の場合は、持ち込み先が一カ所ではないと思う。種子島の場合は、業者も資料の中に示されている。それができると、粗大ごみは直接搬入のみということが出来るが、距離の遠さは気になる。

委員：分別の分かり易さという点で、前話した写真付きの分別表を作ってほしい。シールが貼ってあるものは、はいだ方がいいのかな、切った方がいいのかな。

委員：紙と銀紙はどう分けるのか、分かり易い資料ができれば、分別しやすいのと思う。

委員：分別について、町民も汗を流さないといけないと思う。自分がしなくて役所にしてくれとなると税金を上げればいい。油だったら、集落に1ヶ所。大型粗大ごみも集落に一カ所。直接持ち込み。ただ、屋久島は高齢化が進んでいるので、高齢者世帯は、連絡もらえれば業者が取りに行きますよという方法も検討して、大型粗大と油は拠点を決めて収集するというもの一つの方法。それでなければ、お金を上げましょうよと、苦しい財源の中で大変だと思う。少し、運ぶくらいは、誰かが出来ると思う。意識を改革していくと、わずらわしさがあれば、捨てたいけど、一年使おうかなと思う。あまりにも贅沢になって、いつでも持っていけば捨てられるというのが今の状況。

委員：現実に、北部と南部は大型粗大ごみについては、違う。北部は拠点回収。南部はステーション回収。そこらへんを変えていく方法もありだと思う。

委員：新しい施設について、今の様に細かな分別が必要な施設になるのか。簡単な分別の施設になるのか。施設の中身はどういう計画か。滞在型の観光客が増えるとごみが増えたときに事業所が責任を持ってごみの処理をしてくれるのか。これらの問題が解決される施設なのか。従来通りなのか。ごみの分別はみんなが意識しないといけない。ごみは出せば持って行ってもらうという簡単な認識しか持っていないのではないか。先程のシールの話だが、私はこすって出すような取り組みをしているが、住民のみなさんにはそのような意識が薄いように思う。これをどう徹底して

いくのかが課題である。

事務局：新しく更新する施設については、今の皆さんの意見を基に、目指すべき姿というものを反映させていく。町として、方針は無い。皆さんの考えを反映させていく。

委員：美化推進委員の仕事について、どこまですればよいのか。分別するときには交代でもでて、分別の確認をするだけでも分別は改善されていく。年に1万の報酬でやっている。少し報酬を増やすことで、回収の際に出てもらうということは可能か。

事務局：美化推進ですが、両地区29名ずつ58名、任期2年をお願いしている。研修は年2回行い。活動内容については、詳しく分別もらうということではなく、ある程度してもらい、分別が悪い人がいたら、声掛けをしてもらう。苦情等があれば、環境政策課に連絡をしてくださいと説明している。

事務局：今後の施設を検討していく中で、美化推進員さんと町と連携を取りながら、活動の中身を見直していきたい。

委員：責任を押し付けるのではないが、機械の補修が少なくなるのであれば、その人たちに分別を手伝ってもらうのもいいのではないか。

事務局：入口のところでしっかり分けてもらうことは大切。

事務局：それでは、今日の皆さんの意見をまとめて、次回の会で、協議をしたいと思います。本日の会は終了します。お疲れさまでした。